

山梨大学学生フォーミュラ部

2014年度 大会報告書

支援者皆様へ

初秋の候、皆様ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。この度、9月2日から6日にかけて静岡県小笠山総合運動公園にて行われました、第12回全日本学生フォーミュラ大会のご報告を致します。弊部の大会への参加は今年で8年目になりました。今年も大会に参戦することが出来ましたのも、スポンサーの方々からのご支援、ご声援を頂いたおかげでございます。ありがとうございました。

今年の大会の総合成績は 90チーム中27位と、昨年度より順位を落としてしまいました。今年度車両はフルモデルチェンジを行い、来年度へ向けた改善点も数多く確認することができました。来年度も上位への進出を目指して活動を行っていく所存でありますので、これからも皆様からの温かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



〈集合写真〉

ここから、大会5日間の様子を日にちごとご報告致します。

1日目

初日は前回大会30位までのシードチームが受けられる車検の日でした。私たちは10時に会場に到着しました。ピット設営、車両最終点検を行い車検が13時開始でしたので初日から慌しく大会が始まりました。



〈車検中〉

この日は車検を通ることができず、指摘された項目をピットに戻って修正を行ったところで1日目が終了になってしまいました。

2日目

大会2日目は前日からの再車検と残りの車検・チルト試験(燃料漏れ試験)・騒音試験に合格することができました。そして、この日は静的審査を行いました。審査の内容は4つあります。車両の開発過程や理解度をみるデザイン審査。車両の製作費用を正確に計算できているか確認するコスト審査。指定された部品を年間1000台分生産するにはどうすればよいかという課題に答えるリアルケースシナリオ。自分たちが製作した車両を生産会社にとってもらうためにプレゼンを行うというプレゼンテーション審査。

静的審査後は各担当が昨年よりも手ごたえを感じていました。プレゼンテーション審査では前回大会の反省点である”市場調査”を200人にアンケートを実施した上でのプ

レゼンを行いました。デザイン審査ではフルモデルチェンジした経緯や解析を詳しく説明しました。審査員からも「良く考えている。」とのコメントを頂きました。



〈チルト試験(燃料漏れ試験)〉



〈コスト審査〉



〈ブレーキ試験〉

静的審査終了後、ブレーキ試験を行いました。ブレーキ試験では4輪全てをロックさせなければいけません。しかし、フロントタイヤが何度やってもロックしませんでした。大会直前にトラブルが起り、フロントのブレーキを昨年度仕様に変更したことが原因でした。この日は考えられる対策を全て行いましたが、ブレーキ試験を通ることができませんでした。

3日目

朝1番で再びブレーキ試験を行いました。ブレーキパッドを新品に交換しブレーキ試験を通ることができました。新品のパッドは大会に持って来ていた他大学様から頂きました。大会3日目から動的種目が開始となり、午前中はアクセラレーション(0-75m加速)とスキッドパッド(8の字旋回)の種目がありました。アクセラレーションは車両の重量増加に伴い、昨年度よりタイムが伸びませんでした。スキッドパッドは大会前にドライバーの練習時間が取れず、こちらも昨年度よりタイムを落としてしまいました。



〈全ての車検に合格した証〉



〈オートクロス出走待ち〉

午後からはオートクロス(コース走行)を行いました。エンジン不調の問題があったこともあり、思うようなタイムが出せませんでした。このオートクロスのタイムが早い順にA,B,Cグループに分けられエンデュランス(耐久走行)の出走時間が異なります。オートクロスの結果、私たちはCグループとなりエンデュランスの出走は4日目の午後に決まりました。



〈オートクロス走行中〉

4日目

いよいよエンデュランス（耐久走行）の出走日です。この日は朝から土砂降りの雨でした。2時間近く雨が止むのを待って、遅れて競技が始まりました。その後も午前中は天気が優れず、車両のセッティングも晴れ用と雨用のセッティングのどちらで準備するのか、ピットでの慌しい作業が続いてしまいました。午後は天気が回復し路面状況も良くなり、私たちにはベストな状況でエンデュランスがスタートしました。

1人目のドライバーが順調に走行を重ね、10周走行したところで無事2人目のドライバーに交代しました。2人目のドライバーがタイムを削って走行を重ねているときに、車両から異音が発生してきました。その為緊急の検査を受けるために止められてしまい、大幅なタイムロスをしてしまいました。検査にて走行許可の判断が下り、その後エンデュランスを完走することができました。

トラブル続きの大会でしたが、全種目を終了することができました。



〈雨による待機中〉



〈エンデュランス走行中〉



5日目

大会最終日である5日目は、引き続き耐久走行と表彰式、閉会式が行われました。競技が終了している私たちは来年度車両のことも考え、他大学の車両研究・偵察に一日を当てました。

総合成績

・総合順位 27位/90 チーム中 (前回 12位/78 チーム中)

・総合点 462.24 点 (前回 577.92 点)

大会総合成績

種目	2014 年順位	2013 年順位
コスト審査	32 位	33 位
デザイン審査	16 位	36 位
プレゼンテーション審査	26 位	47 位
アクセラレーション	36 位	21 位
スキップッド	40 位	8 位
オートクロス	42 位	21 位
エンデュランス	24 位	13 位
燃費	21 位	15 位
総合順位	27 位	12 位

今年度車両は YFR 初のフルエアロパッケージに挑戦しました。解析では分からないこともありましたが、実際に製作し走行させることで効果を感じた場面、改善点など多くのことを学びました。動的競技では全種目の順位を落としてしまいましたが、この結果は来年度へ繋げることができると確信しています。静的審査では私たちの課題として取り組んできた結果、デザイン・プレゼンテーション審査の 2 つで過去最高の評価を頂きました。

最後に

今年もスポンサーの皆様からのご支援、ご協力ありがとうございました。今年の大会に参加することが出来たのも皆様のご支援のおかげです。部員一同心より感謝し御礼申し上げます。今年の活動は車両の完成が、大幅に遅れてしまいました。来年こそ、今年度車両からの改善点を盛り込み早期完成を目指します。静的審査では着実に順位アップ

することができましたので、引き続き努力しトップ10を狙えるよう活動していきます。
スポンサーの皆様にも、正々堂々の快報をお送りできるよう部員一同邁進していく所存です。
来年度も変わらず活動へのご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

FA 角田 博之

FA 丹沢 勉

2014年度部長 中村 一樹



〈Shingen14〉